



撮影場所 鳥取県伯耆郡伯耆町福岡 福岡堤より望む冠雪の伯耆富士

新年会並びに色見本プリント確認会 開催のお知らせ

運営委員長 田中 明

新年、あけましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

下記日程にて『平成31年新年会』並びに『色見本プリント確認会』を開催致します、2019展に出展される会員諸氏におかれましては、必ずご参加戴き、各自、ご自分の出展作品の色見本確認を完了戴きます様、宜しくお願い致します。

開催日時：平成31年1月19日(土)

受付：11:30～開始

新年会：12:00～14:30

開催場所：大阪写真会館 5階会議室

会費：3,000円（弁当、飲物代等）

会費は、当日受付にてお支払い下さい。

※新年会に参加される方は、弁当手配等の関係がありますので、同封の「参加連絡はがき」にてご連絡ください。（お手数ですが、62円切手を貼り1月10日までに投函下さい）

新年会終了後、14時30分頃より作品制作担当会社 堀内カラー担当者に来阪頂き、『色見本プリント確認会』を開催致します。

今回行います『出展作品の色見本プリントの確認』の指示内容に基いて、出展作品プリントの制作を行います。については、今回の『色見本確認会での修正指示内容』次第で、最終のプリントの仕上がりが決まると云っても過言ではありません。

2月に開催予定の『最終出展プリント確認会』に於いては、特段のプリント出力に異常がない場合、そのまま出展作品の額装作業へ

と進みます。ついては、今回実施致します『色見本プリントの確認作業』は、最終プリントの仕上がりを左右する重要な確認作業となります。

作品を出展される会員で大阪近郊にお住まいの方は、14:30からの確認会には必ずご参加戴き、各自でご自分の作品の色見本確認を実施して戴きます様、宜しくお願いします。

事務局便り

事務局 高田 幸二

【12月度の報告】

12月度の研究会はありませんでした。「日本大判写真展」2019の出展作品リストが出来ましたので、以下の通り報告いたします。

自由の部	会員+会友会	43点
課題の部	会員+会友会	18点
モノクロの部	会員+会友会	13点
デジタルの部	会員+公募展	10点
	合計	84点

【出展作品の色見本確認会について】

別途ご連絡致します『1月19日(土)開催の新年会』の終了後に、作品制作担当会社 堀内カラー担当者に来阪戴き、各出展作品の『六切サイズ色見本プリントの確認会』を実施致します。近郊にお住まいの出展者の方は、必ず参加戴き、各自の出展作品の色見本確認を完了戴くようお願い致します。

【作品集制作中止と2020展について】

既にご連絡の通り、2019展作品週制作を中止する旨の決定を致しました。作品集の制作を中止するのは、運営委員会としても苦渋の決断であります。

上記報告をご覧頂きますと御理解頂けますように、現在、『日本大判写真展』への出展者が、会員、会友、公募の全てにおいて、減少の一途を辿っております。今般、写真集製作中氏の決断に至りましたのも、単純に『写真集掲載の出展者数と作品数の減少』が全ての理由です。単刀直入に言いますと、『作品集制作に必要な原資が確保できない』と云う財

政的理由から、運営委員会において、作品集制作は終了とする旨の決断を致しました。

作品集製作費に限らず、『日本大判写真展の出展には金が掛かりすぎる』旨の苦情を以前より多く頂いてます。『出展に係る経費』は、何も今回製作中止に至った『作品集製作費の2万円』という金額に限りません。出展料に関しても、現在の『1点目1万円、2点目以降5千円/点』の出展料だけでは、既に『開催会場賃借料と展示飾り付け作業費』を賄うことは不可能となっております。

実行委員会では、既に12月より『2020展京都展の開催に関する打合せ』を開始しております。運営委員会での検討結果としては、

1. 出展者数は、会員を含め継続して減少するであろう。(会員数も、継続して減少することが明らかで、新規会員も見込めない)
2. 会友の年齢構成を見るに、当協会と同様齢化が進み、出展者数は年々自然減が見込まれる。
3. 新たに開設したデジタルカメラ部門についても、応募者が少なく、来年以降の募集について一考の必用がある。(例えば、会場で翌年の応募要項を配布するなど)
4. デジタルカメラ部門の開設は諸刃の刃でも有り、古くからのフィルム作品の出展者からは不興の声もある。(デジタルを募集するなら応募しない等々)
5. 出展料も作品1点当たり1万円では、会場費を賄うのが精々で、飾り付けを業者委託する費用は賄えない。

以上の背景から、2020展以降は「作品飾り付け作業を出展者自身が行う」必用があると思われま。

遠隔地在住の出展者(会員、会友、公募)について、展示作業に参加戴けない部分を如何様にカバーするか?等々、検討が必用な事項が未だ多々有りますが、方向としては『出展者が、自分で飾り付け作業を行う』方向にあるのは間違いありません。

以上、ご報告致します。

オールド中判カメラの勧め

大阪府堺市在住 松本 憲治会員

「年の始のためしとて… オールド中判カメラを楽しんでみませんか？」と云うのが、今回のネタ。

11月号で「モノクロ写真との出会い」と題して、拙文を掲載して戴きましたが、それからは、どうにも「また6x6の中判カメラで、真四角写真を撮ってみたいな～ 出来れば、自分が子供だった頃のカメラで…」と云う考えが頭を離れません。

問題は「程度の良いオールド中判カメラをどうやって手に入れるか？」 まあ、定番は「ヤフーオークションに出品されてるのを落札する」のが手っ取り早い方法で、早速、チェックするも案外程度の割には良いお値段…

この頃、YouTubeの動画で「MEDIUM FORMAT FILM PHOTOGRAPHY - ZEISS IKON NETTAR」（リンク先URL: https://youtu.be/8NuVYu_jMGM）と云う動画を見つけ「このカメラ、ナカナカ面白そう…」と、この際、眼を海外にも向けて世界最大のオークションサイトとも呼ばれる「e-Bay」のサイトを検索してみることに… ええ、見つかりましたよ。動画に出ているのと同じZeiss Ikon Netter 517/15と云う「6x6判の蛇腹カメラ（向こうでは「Folding Camera（折りたたみ式カメラ）」って云うらしい。何でもこのZeissのNetter 517/16と云うのは戦後のドイツで作られたカメラだとか？製造時期は1951～57と、ドンピシャ小生の子供時代！早速、e-Bayにユーザー登録して、「Zeiss Ikon Netter」を呪文のように検索欄に入力して探すこと2日。見つかりましたヨ、程度の良いのが割と安い値段で。カメラ32.5英ポンド（約4,600円）、送料22.79英ポンド（約3,200円）の合計約7,800円でした。注文から待つこと約2週間で現物が到着。我が家へ日曜日の昼過ぎにクロネコヤマト便で配達されてきました。当初の到着予定日の1日前に…早速、開梱して現物を確認… カメラ本体はえらく程度が良い。オマケで付いてきた革の

オリジナル速写ケースは、底が剥がれてて修理が必用だったけど…（これは昨日、革用接着剤でくっつけて修理しました）



英国から届いたZeiss Ikon Netter 517/15 後期型

届いたのが日曜日の午後とあって、翌日は暗室作業のお手伝い… 結局、フィルムを入れての試し撮りは、届いた2日後の火曜日となりました。

試し撮りをするにあたっての問題は、「感度幾つのフィルムで撮るか？」なんてって、戦後間もないころの廉価版のカメラですから、付いてるVarioシャッターには1/25、1/75、1/200秒の3段しかないし、絞りは6.3から22まで… シャッターと絞りの組み合わせを考えると、晴れの日なら、ISO400フィルムなら絞り11で1/250秒でOKですから、この際、ちょっとっ高いけどIlfordのDELTA400の120ロールフィルムを奢って撮ることに… まあ、どんな風に撮れるか？見た目はレンズも綺麗だし、シャッターのちゃんと動いてるようではあるが、「シャッター速度は当てにならないしな～」などと考えながら、自宅周辺を小一時間自転車で廻りながら撮ったのがこの3枚の作例…

（取り敢えずは試し撮りなので、「構図がどうだ」とかは、この際無視して…）



南海高野線初芝駅近くの路地にあるお寺



南海高野線初芝駅前ロータリーの風景



氏子の萩原天神境内の奉納神馬像

意外と露出はそれなりに合っていました。なにぶんピントは目測で合わせるの、いくら

「絞り11に絞って、距離6~10m辺りにしておけば、だいたい合う」とは云っても、やはりボケボケの写真じゃないか?と少々心配。添付の作例の画像は、撮影したフィルムを現像後にスキャンしたのですが、中間調のコントラストを上げてスキャンするよう調整してます。この辺りの調整をしないと、かなりソフトな描写の画になります。多分、撮影するときに、モノクロ用のフィルターを付けないで撮ったので、コントラストが低くなってしまったんでしょうね。ただ、このカメラのレンズ口径は32mmなので、付けるとしたら「カブセ式の32mmフィルター」はケンコーから特注品で出てますが値段が一枚3200円以上する高価なモノ。撮影する際にフィルターを使うのなら、カメラを三脚に固定して、ゼラチンシートフィルターをレンズの前に手で持って撮るのが現実的な方法かな。

このZeiss Netter 517/16には、Novar Anastigmat 75mm f6.3と云う、トリプレットレンズ(3枚組のレンズ)が付いてますが、それでもf8~11辺りに絞れば結構シャープな写真が撮れるようで、前掲のYouTubeの画像に出てくる作例の画像も、思いの外にシャープなのが出てます。

入手した個体は、ファインダー部の形状から後期型のように、おそらく1955年前後、小生が幼稚園に通ってた頃のカメラと思われる。この時代のドイツの工業製品の製造能力は高かったのでしょう、60年経った今でもガタのない頑丈なカメラに仕上がっています。

モノクロで撮るのなら、「コーティングが無いレンズだと色収差がどうたら」と小難しいことは言わずに使えますし、多少のコントラストの低さは、プリントするときにフィルターで補正も効くし、むしろコントラストの低い写真の仕上がりも、それはそれで「カメラの持ち味」と考えて楽しむのもアリかと…

大判カメラで、いつも露出とピント合わせに細心の注意を払って撮っていると、時にはこんな「ユルイ撮影」を楽しむのも、道楽写真の楽しみの一つかも?と思えます。宜しかったら昔の蛇腹カメラ1台、如何です?